



山形県木材産業協同組合

〒990-2473 山形市松栄 1-5-41
 TEL.023-666-4800 FAX.023-646-8699
 URL:http://www.mokusankyo.com
 E-mail:yamawood@mokusankyo.com

目次

1. 第 43 回木産協総会開催される!!
2. おいしい山形空港内装木質化展示事業
3. 木産協研修計画について
4. 会議・イベント等
5. 4 月住宅着工状況



1 平成 29 年度 第 43 回県木産協通常総会が開催される!!

5 月 26 日 (金)、ホテルメトロポリタン山形 霞城の間 (山形市) において、第 43 回通常総会が開催され、平成 29 年度の事業計画等が承認された。総会には、西川晃由山形森林管理署長、安達喜代美山形県農林水産部森林ノミクス推進監 (兼) 林業振興課長、山形県森林研究研修センター所長、県各総合支庁森林整備課長、関係団体長等の来賓のご臨席を頂いたほか、今井榮喜県議会議員より祝電メッセージが届けられた。

総会は、組合員 154 名 (うち委任状 97 名) が出席し、會田悦陸副理事長が議長に選出され、総会提出議案等について活発な議論が行われた。

承認、決定事項は次のとおり。

(1) 平成 27 年度事業報告、収支決算について

ア 組織状況 (3 月 31 日現在)

項目	員数、口数	対前年度比
組合員数	156	+1
出資口数	1,612	+3

※組合員数は、4 社新規加入、3 社退会

※出資口数は、組合員の増減で▲13 口、
 その他増資△16 口 (役員による増資)

※賛助会員は 5 社 (変更無し)



イ 事業執行状況

合法木材等証明事業者の認定と制度普及、木造住宅等地域材利用拡大支援事業 (国庫) による地域材普及啓発の実施、合板用材・木質バイオマス用材の安定供給、木材関連各種情報発信・提供、制度資金・補助事業などによる施設整備支援、経営基盤強化研修会等のほか、木工品プロダクトコンペや県プレカット協会の設立総会等を行った。

H28 補正事業 (H29.1~8 月) による首都圏での県産木材、加工・建築技術等を PR や研修会、山形空港内装木質化モデル展示検討会等を開催した。実際の工事は H29 年度となる。

また、林業まつり等 5 つの事務事業を受託し、全て計画どおり執行した。

ウ 収支決算

上記事務を執行するにあたり、事務体制を強化 (一定期間事務体制の複数化) したことにより、効果的取組が可能となったほか、チップ・合板用材等共同販売数量の増大等もあり、収支では 885,500 円となり、繰越剰余金 (約 5,600 千円) で処理することになった。

これらについて、原案通り承認されました。詳細は、総会資料をご覧ください。

(2) 平成 29 年度事業計画、収支予算について

ア 事業計画

アベノミクスの推進による経済の好循環は生まれ始めているが、地方においては、まだその効果が行き渡らないと考えられる中で、県においては昨年 12 月に「やまがた森林ノミクス推進条例」が制定され、「しあわせ」ウッド運動をスタートさせている。「ウッド・ファースト」「ウッド・スクール」「ウッド・オフィス」「ウッド・ライフ」の 4 つの木づかい運動である。そのために公共建築物、商工業施設、身の回り製品等の分野での木材利用を進め、住宅以外への依存率を高めていく必要がある。

具体的には、次の項目を重点的に取り組む。

- ① 環境保全のための合法性のある木材・木製品の生産・流通の拡大及び産地間競争が激しくなる中で、品質・性能の明確な木材製品の供給体制の構築。
- ② 地域の木材資源を取りまとめ、木質バイオマス発電や熱利用、集成材・合板用材等としての安定供給を実現する。
- ③ 地域材の利用拡大のため、県の「しあわせ」ウッド運動を受け、「ウッドファースト」からイベントやマスコミ等を活用し、県民に対しての効果的な普及啓発に取り組む。
- ④ 公共建築物及び商工業施設等を新たな木材需要拡大の分野と位置付け、「ウッドオフィス」運動から関係団体等と連携し、木材需要を創造する等。

イ 収支予算

素材の共同販売の増加の見込み等により 321,750 千円とする。(前年度比 66,667 千円)

ウ 組合費徴取方法の決定

平成 29 年 8 月 31 日までに支部が一括して納入する。(1 事業体あたり 30,000 円)
個別加入組合員は同月日に個別に納入する等。

これらについても、原案通り承認されました。詳細は、総会資料をご覧ください。

(3) 役員改選について

今年度は役員改選の年となっています。指名推薦の方式が承認され、指名人による選考委員会により、組合員理事 19 名、員外 2 名、監査 2 名、顧問 1 名、計 24 名が総会に提案され承認された。引き続き第 1 回役員会を開催し互選により、新理事長については、阿部昭氏、新副理事長には、松田賢氏、會田悦陸氏、相田吉則氏、遠田勝一氏が再選された。専務理事には鈴木健治氏、統括理事には大隅尚行氏が承認された。



(4) 山形県木材産業政治連盟の総会

木産協通常総会の後、標記政治連盟総会も行われ、平成 28 年度事業報告・収支決算、平成 29 年度事業計画・収支予算が審議され、原案通り承認された。政治連盟は、木産協事業を政治的側面から支援するものであり、本年度は、非木造施設の木造化の推進や「森林ノミクス」に貢献する木材利用への理解の促進等を重点として活動を展開することになった。

予算額は 226,930 円で、組合員一人 1,000 円を、8 月 31 日までに木産協政治連盟あて納入することになった。なお、特定政党を支持したりするものではなく、また、政治連盟の入会は強制ではありません。必要経費ですので、ご協力お願いいたします。

(5) 質疑応答の概要

平成 29 年度事業計画を中心に様々な質問・意見が出されたことから紹介します。

ア 「やまがた森林ノミクスと木産協の関わりについて」(山形市 鍋倉利樹氏)

質問：知事が提唱している「やまがた森林(もり)ノミクス」について、新聞を始めとしたマスコミで、見たり聞いたりすることが多くなっています。木産協としても産業振興や社会的役割を果たす上で、大きな取り組みを行うチャンスなのではないのかと考えています。この追い風を受けて木産協はどのような方向を目指すべきなのか。もう少し詳しくご説明をいただきたいと思ひます。

また、最近、山の木を伐採した後の「再造林」について、関係業界からの資金提供などの新聞記事もあり、これらに対する見解等についてもお聞きしたい。



(答弁：阿部昭理事長)

「やまがた森林ノミクス」は、森林をはじめとした地域資源や地域の技術を活用し、地域活性化につなげる取組であります。正に、地域木材産業がその役割を体現している存在と言ってよいのではないかと考えています。3年ほど前に、知事が提唱しており、その後の県の施策により大型集成材工場・木質バイオマス発電所の誘致や県立農林大学校の林業経営学科の設置などが行われ、注目を集めているわけですが、この間、木産協としては、

- 全国上位の該当率で高い評価を得た、地域材の活用を推進した、木材利用ポイント事業の展開、
 - 県内外のイベントに初めて出展する等の地域材利用の普及啓発の取り組み拡大、
 - 充実した森林資源を大型工場に、安定的に届ける共同販売による木材流通の拡大、
 - 乾燥 JAS 工場認定を進め、品質性能が保障された製品生産の拡大などを行っており、
- これらは、「やまがた森林ノミクス」を業界側からしっかりと支える取り組みであると考えております。



ご質問にありますとおり、これらの経緯を踏まえ、これからどのような方向に業界の力を結集・発揮していくのかが、大きな課題であります。少子高齢化が進展し、近い将来住宅着工数の減少が、急激に始まることが予想される中で、非住宅部門の木造化や都市部における商工業施設及び公共建築物の木造・木質化の推進が、当面の課題であり、割合的にまだ小さいその部分に伸び代があると考えております。これらをめざし、昨年度、後半より始まった、山形空港の内装木質化のモデル展示や木産協傘下の地域木材業組合の行政当局への様々な要望活動を展開するようになっており、各地域で他団体等とも連携しながら、推進していく必要があると考えております。森林ノミクスも「棚ぼた」ではなく、私どもがどのような、製品を生産できるのか、どのような木材需要拡大の仕組みを提案できるかにかかっているわけであり、是非、組合員の皆様のご協力、ご活躍をお願いしたいと考えております。

また、「再造林」の支援の在り方等に関する質問もありましたので基本的な考え方を述べておきたいと思ひます。今月 17 日に、「山形県再造林推進会議」を設立し、会合が開かれております。私も委員として任命されており、当日は、様々情報交換を行ってきたところであります。当組合は、業態として素材生産から素材流通、製材加工、製品流通の部分を受け持っている団体であります。すなわち、素材流通や加工等を通して、生活資材である木材を、より使いやすい形状、形態にして、県民の皆様に安定的に供給していくことが一義的な役割であります。意見として、①森林経営計画の支援、②A材の利用促進、③幅広く支援を受ける、④保育と一体となった支援を要請しました。

川下から川上まで、県内森林・林業・木材産業が一体となって、再造林を支援していく体制づくりが必要で、循環型社会構築に向け業界全体の協力をお願いしたい。また、県当局には、再造林の問題だけでなく、地域活性化として若者の定住、雇用対策等全般で取り組んでもらいたい。

イ 空港木質化の取り組みについて (南陽市 沖田洋元氏)

質問：先程の答弁の中で、国の補正事業を活用した、内装木質化の普及啓発として、山形空港の木質化のモデル展示がありました。具体的にはどのような状況なのか。また、今後、どのようなターゲットを考えているのか等について教えてください。



(答弁：相田副理事長)

【やまがた空港2階の「おくつろぎコーナー」の内装木質化のモデル展示】について、概要をお知らせします。この取り組みは、平成28年度国の補正事業で認められもので、県産木材を活用した、公共的施設の内装木質化のモデル展示として木産協が実施したものであります。デザインや加工精度の確保、空港という特殊な場所であり、所定の期間内で、徹夜的な工事となることから、木産協としては、その種の経験が豊富な、木産協傘下のプレカット協会に依頼し、設計と加工、設置等を実施したものです。使用材は県内のブランド材である、金山杉、西山杉、庄内温海杉、置賜スギ、ブナ、ホオノキの広葉樹を使い、山形県内の「山の形」や最上川を現したほか、「さくらんぼ」をモチーフにした空港ロゴマーク等を配置してあります。その他の公共施設の内装モデルとなるものですので、組合員の皆様は是非、ご覧になっていただきたいと思っております。



今後、これをテコにしながら、庄内空港や、他交通拠点等、様々な公共的施設の内装木質化等について受注できるように、木産協が前面に出ながら、傘下の県プレカット協会等と共に、取り組みを強めていくことにしておりますので、よろしくご協力下さいますようお願い致します。

関連記事が次ページに掲載されています。

ウ 大型加工工場や木質バイオマス発電等に対する素材安定供給について (鶴岡市 阿部秀辰)

質問：県内の素材生産量が40万m³を超えていると聞いており、充実しつつある森林資源の利活用が一段と進んできていると感じています。また、3年ほど前から始めた、木産協の共同取扱量も、「用材」、「木質バイオマス」合せて4万m³程度になっており、販売先も、木産協が交渉しながら、10社程度に拡大していると聞いています。

素材生産組合員、単独の納材と合わせると、県内総生産量の相当数量を占めていると考えています。現在の、集成材工場や木質バイオマス発電所のほか、さらに大型製材所設置の動き等もあり、県内森林資源1億m³に対する需要は一層拡大、多様化してくると思っています。このような状況の中、今後の課題や留意点、県内木材産業、特に素材生産関係組合員の取り組みの方向についてお聞きしたい。



(答弁：遠田副理事長)



昔の素材生産業と比べると、注目を集めるようになってきていると思います。また、機械化も大分進んでいるが、収益面から見ると、人件費、資材費、機械価格の高騰もあり、儲けが出ているわけではありません。このところをしっかりと抑えて、次の展開を考える必要があります。我々、素材生産組合員は、一般に小規模経営であり、日の出から暗くなるまで働くのが日課で、損得も「どんぶり勘定」が多かったわけがあります。最近ようやく、パソコンや経理の事務員を配置し、現代の会計処理に近くなってきているが、森林組合等と異なり、補助事業をはじめとした制度に乗り切れていないところが大半であります。

素材流通が増大してことから、増益増収と言われているが、県内集成材用材の価格を見ても分かる通り、品質はA材だが、価格はB材であり、儲けが出ない構造となっています。このように、品質が劣る合板用材よりも安いのが実態である。さらに、最近では、他県の大規模な素材生産団体や、県内に進出した大型需要工場が、森林資源の買い付けに走っており、地域の素材生産事業者が、山買いができない事例も出てきています。これら大手の下請けになれば、安定しているように見えますが、大手同志の決着が付けば、下請け価格は大きく引き下げられる可能性があります。それを考えるにつけても、様々な誘いに乗らずに、木産協の共同販売に徹していくことが、素材生産業の確実な発展につながると考えています。この3年で、素材生産事業者が木産協に結集し、県内でも有数の勢力になっているが、力はまだまだ弱い団体です。結集した素材生産業のメンバーは、これまで以上に結束を高めるとともに、共同での「森林購入」や「各地域での経営計画の作成」等、今後取り組む課題は多いと考えています。

また、発電用木質バイオマスの証明については、従来にもまして、細心の注意が必要な時代となっており、これまで以上の事務局からの指導をいただきたいと考えております。

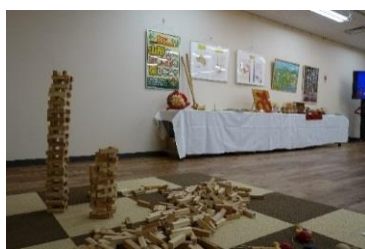
私は、生産した全量を木産協の共同販売に向けており、他にも何社かあるようですが、まだ多くの素材生産組合員は、木産協と自社ルートとの2本立てとしており、これらを木産協に集約することで、より強力な取り組みが可能となると考えています。木産協の素材生産組合員の皆さんは、全員が主役です。是非、共に頑張ってくださいと思います。

2 おいしい山形空港内装木質化モデル展示

おいしい山形空港の「おくつろぎコーナー」に山形県産製品と紹介用パネルを展示して幅広く県産材製品のPRを行っている。

展示は大型連休に合わせ5月2日から行われており、県内各地の木材を使い、木目や色合いを活かした木製板材を約40平方メートルに渡り展示した。樹種はスギ(西山スギ、金山スギ、置賜スギ、庄内あつみスギ)、広葉樹(置賜産のブナ、ハウノキ)を使用した。施工は空港という特殊施設のため、夜間工事のみで工期が限られること等から山形県プレカット協会に委託し、出羽三山と最上川をイメージさせる展示デザインと山形空港ロゴマークにサクラ材を素材のままで展示するなど、空港を利用する観光客などにPRを行っている。





また、同空港 2 F の多目的ホールにおいては、県産木工品の展示（木工品プロダクトコンペの優秀賞作品：森のおさら、やまがた木、s 等）と木育コーナー（県産スギ積木とけん玉）を 5 月 22 日から 6 月 12 日まで設置し、サクランボの時期で国内観光客やインバウンドの多い中で P R をしています。組合員の皆さんもぜひご覧ください。

3 木産協の研修計画

本年度の事業計画では、環境及び地域社会への貢献、組合員の経営体質の強化の他木材の需要拡大を目指すための設計・施工業界への働きかけの強化等を盛り込んでおり、それに基づく狙いを絞った各種研修会を企画している。日時・会場が不明のところもあるが、大勢の組合員のご参加を期待している。一般県民の方が気楽に参加できる研修会もあります。

	研修名称(仮題)	内容(未定のものあり)	時期
1	木産協の若手組合員、事業体職員を対象とした木産協青年部研修会	木材加工業の先進地研修 (協和木材新庄工場、空港木質化等を予定) その他情報交換会	7 月頃
2	設計・施工業界を対象にした「木構造設計」に関する研修会	木材加工業者、建築設計事務所、施工業者等、地域の関係者の協力による木造物件を増やしていく基礎講座。(木構造設計の基本等)	7 月頃
3	新規、更新事業体を対象にした合法木材事業者認定研修会	合法木材実務研修会 (新規・更新事業体の必須研修会)	9 月 中下旬

4 山形労働局・各労働基準監督署からのお知らせ

山形労働局（庭山佳宏局長）は「第 12 次労働災害防止計画」に基づき、平成 29 年の死傷者数を 5 年前と比べ 20% 減少させることを目標としている。しかしながら、昨年末で 9.6% の減少に留まっていることから、死亡災害及び労働災害のさらなる減少につなげるために、事業者及び労働者の安全意識の高揚を促し、更なる労働災害の減少を図るため、全国安全週間（本週間 7 月 1 日～7 日、準備期間 6 月 1 日～30 日）に合わせ、7 月 4 日（火）に、県下一斉安全パトロール等を実施し労働災害防止活動（安全パトロール、職場の安全点検等）の実施を提唱している。

つきましては、木産協組合員の各事業場においても安全活動の定着と安全水準のより一層の向上を図り、かつ、継続的な安全管理の定着を目指して安全活動の総点検をお願いします。

- (1) 職場点検、4 S 活動（整理、整頓、清掃、清潔）、危険予知活動、危険の「見える化」、ヒヤリハット活動等の安全活動の活性化
- (2) 荷台等からの墜落・転落防止対策、保護帽の着用の実施
- (3) 機械の危険部分への覆いの設置等によるはさまれ・巻き込まれ等防止対策の実施
- (4) 作業停止権限等の十分な権限を安全担当者に付与する等の安全管理の実施
- (5) 事業場における老朽化設備の計画的な更新、優先順位を付けた点検・補修等の実施
- (6) 木材伐出機械等を使用する作業における安全の確保
- (7) チェーンソーを用いた伐木及び造材作業における保護具、保護衣等の着用並びに適切な作業方法の実施
- (8) 適正な労働時間管理、走行計画の作成等の走行管理の実施

5 会議・調査・イベント等

(1) 合法木材実績報告の提出について

合法木材事業者認定要領第 9 条に基づき、認定事業者は前年度の合法木材取扱実績について、本年度 6 月末までに、木産協宛て提出する必要があります。ご多忙中恐縮ですが、同封した用紙に記載の上、FAX でも結構ですので、所定の期日までに提出下さるようお願い致します。

合法木材事業の普及推進のため、買い入れの際は必ず証明書を求めると共に、出荷の際は納品伝票に「合法木材認定番号」と「合法木材である趣旨」を記入し納材下さるようお願い致します。

(2) 平成 29 年度山形県木材動態総合調査業務の協力について

今年度も各地域の皆様から上記調査事業モニターの委嘱と情報提供の協力をお願いします。調査内容は①原木価格・製材品価格、②製材品流通量等、③酒田港木材動態調査、④乾燥材生産実態調査です。製材工場 28 社、乾燥材生産施設 22 社を予定していますのでご協力をお願い致します。

(3) 日本一サクランボまつりへ参加します

木工品展示ブース (平成 28 年度の木工品プロダクトコンペ参加作品などの展示・販売、テント設置)
日時：平成 29 年 6 月 17 日(土) 11～18 時、18 日(日) 11～16 時
会場：文翔館前 (山形市：旧県庁)
その他：両日共、七日町大通りは歩行者天国となります。(時間制限あり) 専務等参加予定

(4) やまがた県産木材利用センター第 9 回通常総会及び講演会 (木造住宅に関する話題)

日時：平成 29 年 6 月 12 日(月) 15 時～
場所：ホテルメトロポリタン山形 講演予定者：林業振興課、建築住宅課、山形県優良住宅協会

(5) 住まいの耐震博覧会への参加

今年度も仙台圏内での「耐震博覧会」に参加します。国補正事業等を活用し消費地での県産木材の PR を実施するもの。東北各県の木材団体も同時に出展することから、本県の選りすぐりの木製品、木造建築技術、木工品等で攻勢をかける。例年山形ブースの集客度は注目を集めている。

日時：平成 29 年 7 月 8 日(土) 10～17 時、9 日(日) 10～16 時
会場：「夢メッセみやぎ」(仙台市宮城野区みなと 3 丁目 1-7)
その他：出展希望があれば木産協までご相談下さい。(建築物は 2 棟程度、他はその周辺で展示 PR)

6 日本百名山(山形県に 6 座)シリーズ紹介

朝日連峰 主峰大朝日岳 (1,871m) は本県西部に位置し、西川町・大江町・朝日町・長井市・小国町・鶴岡市等からの登山道が整備されています。コースタイムが比較的短くお花畑も見られ水場もある古寺コースがお薦めで、健脚者であれば日帰り登山も十分可能なコースです。小朝日岳から眺める主峰の Y 字雪



ヒメサユリ

渓やヒメサユリやウスユキソウの可憐な花々に会うことができます。

ゆっくり景色やお花畑を楽しむためには、山頂直下に大朝日小屋 (夏場に管理人が常駐：素泊まり 100 名可) があります。また、毎年登山道整備のボランティアツアーも山形大学農学部の菊池准教授を中心に実施しています。日本百名山や高山植物等に興味がある



熊越から大朝日岳

方は専務理事鈴木に相談してください。

木産協推薦の夏のギフト「丸大ハム」等をお遣い下さい。別紙パンフレット参照。

平成 29 年 4 月期の県内新設住宅着工戸数は 566 戸となり、対前月比 182.6%、対前年同月比 126.6%と高水準となっています。これは住宅金融商品の低金利継続や大手企業の最高益決算発表等の明るい材料、県市町村の補助金・利子助成など公的支援の充実拡大ほか、各自治体が積極的に住宅団地の造成等に力を入れていることなどが考えられます。木造率も 86.4%を維持しています。

1 県内新設住宅着工戸数(平成 29 年 4 月)

(単位:戸)

年月	総数	利用関係別				資金別		木造住宅		木造内訳		
		持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	民間	その他	戸数	木造率	在来軸組	プレハブ	2×4
23年	4,336	3,001	1,100	8	227	3,903	333	3,615	83.4%	2,778	121	716
24年	4,716	3,086	1,273	61	296	4,468	248	3,917	83.1%	2,940	156	821
25年	5,323	3,543	1,372	21	387	5,136	187	4,515	84.8%	3,453	152	910
26年	4,550	2,529	1,505	83	437	4,335	215	3,797	83.4%	2,752	106	939
27年	5,403	3,076	1,721	15	591	5,338	65	4,575	84.7%	3,138	130	1,307
28年	5,675	3,046	1,930	16	683	5,592	83	4,875	85.9%	3,370	109	1,396
28.4月	447	309	87	4	47	443	4	419	93.7%	310	16	93
28.1~4	1,440	821	413	5	201	1,428	12	1,278	88.8%	848	34	396
5月	423	291	66	2	64	418	5	386	91.3%	297	5	84
6月	541	325	165	0	51	527	14	456	84.3%	354	13	89
7月	648	348	215	1	84	637	11	548	84.6%	382	16	150
8月	491	288	171	2	30	472	19	430	87.6%	272	11	147
9月	501	249	205	2	45	501	0	440	87.8%	289	8	143
10月	652	252	329	2	69	645	7	526	80.7%	348	6	172
11月	515	256	173	0	86	509	6	414	80.4%	298	9	107
12月	464	216	193	2	53	455	9	397	85.6%	282	7	108
29.1月	243	144	69	1	29	243	0	207	85.2%	164	4	39
2月	282	164	74	1	43	279	3	257	91.1%	153	8	96
3月	310	193	61	13	43	308	2	275	88.7%	210	8	57
4月	566	277	169	0	120	564	2	471	83.2%	331	13	127
対前月比	182.6%	143.5%	277.0%	0.0%	279.1%	183.1%	100.0%	171.3%	-	157.6%	162.5%	222.8%
対前年同月比	126.6%	89.6%	194.3%	0.0%	255.3%	127.3%	50.0%	112.4%	-	106.8%	81.3%	136.6%
28.1~当月計	1,440	821	413	5	201	1,428	12	1,278	88.8%	848	34	396
29.1~当月計	1,401	778	373	15	235	1,394	7	1,210	86.4%	858	33	319
対累計前年比	97.3%	94.8%	90.3%	300.0%	116.9%	97.6%	58.3%	94.7%	-	101.2%	97.1%	80.6%

2 地域別新設住宅着工戸数(平成 29 年 4 月)

(単位:戸)

市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計
県計	566	1,401	126.6%	97.3%	1,210
山形市	100	362	86.2%	105.8%	287
上山市	8	37	114.3%	119.4%	36
天童市	47	136	261.1%	129.5%	120
山辺町	1	11	11.1%	57.9%	11
中山町	2	6	50.0%	21.4%	6
東南村山	158	552	102.6%	105.1%	460
寒河江市	24	48	150.0%	94.1%	46
河北町	11	19	122.2%	158.3%	18
西川町	1	1	100.0%	100.0%	1
朝日町	1	1	33.3%	25.0%	1
大江町	1	3	20.0%	27.3%	3
西村山郡	38	72	111.8%	91.1%	69
村山市	5	12	100.0%	50.0%	10
東根市	86	160	209.8%	115.1%	154
尾花沢市	12	12	400.0%	54.5%	12
大石田町	2	2	200.0%	200.0%	1
北村山	105	186	210.0%	100.0%	177
村山地域	301	810	126.5%	102.5%	706
新庄市	15	25	88.2%	53.2%	22
金山町	1	1	-	-	1
最上町	2	4	100.0%	200.0%	4
舟形町	2	2	-	200.0%	2
真室川町	0	0	-	0.0%	0

市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計
大蔵村	0	1	-	-	1
鮭川村	0	1	0.0%	100.0%	1
戸沢村	0	0	-	-	0
最上地域	20	34	100.0%	65.4%	31
米沢市	116	164	203.5%	133.3%	95
南陽市	22	69	110.0%	186.5%	67
高畠町	5	15	62.5%	53.6%	15
川西町	3	6	42.9%	40.0%	6
東南置賜	146	254	158.7%	125.1%	183
長井市	17	39	154.5%	139.3%	37
小国町	0	3	0.0%	300.0%	3
白鷹町	7	11	700.0%	84.6%	10
飯豊町	1	3	50.0%	50.0%	3
西置賜	25	56	166.7%	116.7%	53
置賜地域	171	310	159.8%	123.5%	236
鶴岡市	35	130	140.0%	84.4%	127
三川町	3	5	37.5%	31.3%	4
庄内町	4	17	30.8%	81.0%	16
田川	42	152	91.3%	79.6%	147
酒田市	31	92	91.2%	59.7%	87
遊佐町	1	3	50.0%	150.0%	3
飽海	32	95	88.9%	60.9%	90
庄内地域	74	247	90.2%	71.2%	237

注:累計は平成 29 年 1 月~

